

書籍名	日本が心配	著者名	養老 孟司
出版社名	PHP新書	発行年月	2025年 2月

南海トラフの地震は、2038年頃に起きるという予測があります。(尾池和夫、地球科学者)

あと13年後のことです。地震の予測には、古文書が貴重な手掛かりとなっています。

1361年の東海・南海地震から6回、平均117年の時間間隔で大地震は発生しています。

確かなことは、大地震は必ず起こるという事実です。

南海トラフのイメージは、火災被害が甚大だった関東大震災、建物倒壊が目立った阪神・淡路大震災、

津波が人、建物をさらった東日本大震災の三大大震災が一気に来るイメージです。

※関東大震災…1923年

(2025年1月1日時点における予測では、30年以内の発生確率は80%程度です)

※阪神・淡路大震災…1995年

※東日本大震災…2011年

起こればどうなるのか？ 国は経済的被害総額を220兆(東日本大震災の10倍以上)、

土木学会では、地震発生から20年間の被害総額は、最悪の場合1,410兆円に達すると予測しています。

日本の普通国債残高は1,105兆円(2024年末)、世界最悪の財政です。日本が自力で復興するのは

今度ばかりは難しいと思います。日本という国家の存続にかかわる危機と言えます。

南海トラフとは、日本列島に存在している大陸プレート(ユーラシアプレート)の下に、

海側のプレート(フィリピンプレート)が南から沈み込んでいる場所です。

海側のプレートは、年に数センチのスピードで沈み込み、陸側のプレートを引きずり込んでいます。

やがて陸側のプレートは、耐えられなくなり、限界に達して跳ね上がります。

そうして発生するのが南海トラフ地震で、日本の歴史上何回も繰り返しています。

もう一度言います、南海トラフ大地震は、必ず起こります。

1707年 宝永地震、50日後に富士山が噴火する(宝永大噴火)

1854年 安政の東海地震、安政南海地震が連続発生する。

1944年・1946年 昭和地震

日本は地震大国、どの政党も「防災・減災」を公約の柱に掲げていません。日本には、「事前対応」

という発想がないのでしょうか？ 本書は巨大地震後の日本に関して様々な心配をしています。

首都圏の一極集中という状況が被害を深刻なものにします。小さなユニットをたくさんつくって、

地域の持続性を担保していくような取り組みが大切です。介護における地域包括ケアの考えと同様に、

歩いていける範囲の人たちが、互いに助け合って地域を守ることを提案しています。

「南海トラフ大地震は、日本人が本気で生き方を変える最後の機会になる」(養老孟司)



岩 城

編集後記

私は書籍紹介を毎月できるほど、読めないし、うまくまとめられない。しかし最近、図書館をうまく利用し、本屋に山積されている書籍を待ちに待って読む方法を覚え、その快感にはまりつつある。新書大賞2025にもなった「なぜ働いていると本が読めなくなるのか」をget。内容はネタバレになるので書かないが、著者は京大文学部卒、大学院に進むも、中退して上京。学部在学中に京都の書店店長に就任。まだ若干?31歳であるが、十数冊の執筆実績あり。読書の最大の敵はスマホだとは思っていたが、そこをそう切っていくかと。面白く読んだ!

現在、大河ドラマで繰り広げられている江戸時代の読書、そこへ働き方を絡め、時代背景を丁寧におさえながら展開していく、その緻密さそして大胆さ、そして俯瞰力に圧倒された。これからまだまだ執筆されるだろう、今後の著作も楽しみな作家だ(著者は三宅香帆さん)

先日、韓国で話題の、書店小説として有名な「ようこそ、ヒュナム洞書店へ」(これも図書館で予約)とはまた違った話の展開に、久方に読書の奥深さを見たような気がする。恥ずかしながら私も文学部卒のはしぐれ、在学中は定期的な読書会があり苦痛でしかなく、その上、読後感について議論するのだから、たまらない。ところが就職後、本好きな上司の勧めで、お手本にして読書したら、本の向こうに新たに友人ができたような、そんな感覚。自分だけでは思いつかない意見や考えに触れられる。こんな面白い事はない!と気付く。勿体ないのは、それを学生時代に気づけなかったこと。まあいいかと、これからでも、と思ひ直す。三宅さんと同じく、楽しいなあ読書ってと

発行所:ライフデザイン研究所 編集人 伊藤

思って欲しい、その一歩になれば。雨音は読書に集中できますよ

所在地:〒541-0048 大阪市中央区瓦町3-4-87サピル2F Tel 06-4708-6844 Fax 06-4708-7067

案内外!

